

平成22年度環境技術実証事業検討会

小規模事業場向け有機性排水処理技術分野

拡大ワーキンググループ会合

議事要旨

1. 日時：平成22年11月30日（火）14：00～16：00

2. 場所：航空会館 B101会議室

3. 議題

- (1) 環境技術実証事業の概要について
- (2) 環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の概要について
- (3) 本事業及び本対象技術分野への要望・意見について
- (4) その他

4. 出席検討員：藤田正憲（座長）、岡田光正、徐開欽、中井尚、名取眞、宮腰智裕
意見者（実証機関）：

大阪府環境農林水産総合研究所（平成15, 16, 18, 19, 20, 21, 22年度実証機関）

社団法人埼玉県環境検査研究協会（平成19, 20, 21, 22年度実証機関）

意見者（実証申請者）：

OPPC株式会社（平成21年度実証経験者）

株式会社大都技研（平成21年度実証経験者）

意見者（環境技術のユーザー）：

株式会社こむらさき（平成21年度実証試験実施場所提供者）

株式会社丸広百貨店（平成21年度実証試験実施場所提供者）

日本工業大学（平成21年度実証試験実施場所提供者）

サトレストランシステムズ株式会社

5. 配布資料

資料1 環境技術実証事業の概要について

資料2 環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の概要について

資料3 本事業及び本対象技術分野に関する要望・意見について

資料4 今後のスケジュールについて（案）

- 参考資料 1 小規模事業場向け有機性排水処理技術実証試験要領（第 3 版）
参考資料 2 御意見募集要領
参考資料 3 アンケート回答用紙
参考資料 4 平成 22 年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野における実証対象技術の選定について（お知らせ）

6. 議事

会議は公開で行われた。

（1）環境技術実証事業の概要について

（2）環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の概要について

事務局から資料 1、2 に基づき、「環境技術実証事業の概要」及び「小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の概要」を説明。また、本会合の趣旨としては、より効果的な制度の構築のための意見集約であることを説明。

（3）本事業及び本対象技術分野への要望・意見について

事務局から資料 3 に基づき、「実証事業及び対象技術についての全般的な意見募集の結果」及び「アンケート募集の結果」の概要を説明。その後、検討員、意見者から発言を得た。主な要望・意見は以下のとおり。

<「実証事業及び対象技術についての全般的な意見募集の結果」に対する要望・意見>

- 実証技術の普及方法として、関連団体・業界への情報発信、自治体への情報発信等の必要性が要望された。
- ロゴマークの普及に関して、ワーキンググループで分野ごとに設定できる記載事項を検討することは勿論であるが、ロゴマーク自体の普及についても検討の必要性が要望された。
- 本技術分野は手数料徴収体制であることから、実証試験費用の負担は避けて通れず、実証申請者にとっては大きな問題であり、早期の検討課題と考えられる。負担軽減のためには、試験期間、試験時期、既存データの活用等を踏まえ、現状における制約条件に柔軟に対応できるように、本技術分野に適したサンプリング方法の検討が提案された。
- 実証試験を行う場合の条件として、対象技術（装置）への流入水量、流入負荷に適した実証試験実施場所を事前調整し、適合性を図ることが提案された。
- 結果報告書には正確性を求められる反面、数値データが多く分かり難いという意見もあるので、表記の改善等を進め、正確で分かり易い結果報告書のスピーディーな開示が要望された。また、ホームページや関連雑誌・専門誌への掲載、ユーザー関連団体での紹介、（環境省による）発表会等、更なる公表に向けた取り組みが提案された。

<「アンケート募集の結果」に対する要望・意見>

○結果報告書及びロゴマークの利用状況に関するアンケート結果から、実証試験後に仕様変更等があったため、利用できないという回答があった。仕様変更（改良）後の実証技術の対応については、今後の検討課題とすることが提案された。

（４）その他

事務局から資料４及び参考資料４に基づき平成 22 年度スケジュール、並びに実証機関から今年度の実証対象技術の募集経過、実証試験の進捗状況等について説明。

今回の会合については公開であり、議事要旨についてはホームページに公開することが了承された。

以上